

序

律令国家を支えた文書行政の普及を物語る陶硯の出土は、木簡や墨書土器とともに全国各地の古代遺跡から確認され、官衙・寺院遺跡の実態解明にとって重要な手懸りとなっている。

本書は奈良文化財研究所が行なった発掘調査によって、平城京から出土した陶硯資料を集成する資料集の第一分冊として平城宮跡出土資料を収録したものである。当研究所の約50年に及ぶ平城宮跡・京跡・寺院跡における発掘調査によって、1000点を超える陶硯資料が蓄積されている。

平城宮跡からの出土資料がその半分をしめ、あとの半分は平城京、南都諸寺院からの出土である。それらは古代の遺跡として群を抜いているばかりでなく、伴出遺物や出土遺構から時期を限定しうる資料の多さからも、わが国における古代の陶硯の様相を知るうえで、第一級の考古資料である。

ここに収録した資料のなかには、報告書の刊行に先立って報告したものも含まれるが、これは古代史研究における陶硯のもつ資料的価値をかんがみた結果である。本書に続き刊行する『陶硯集成Ⅱ－平城京・寺院－』とともに、古代史の総合的研究に大いに御活用いただければ幸いである。

2006年3月

独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所長

田辺 征夫